

計画検討委員会資料

推奨ルート案の検討方法について

平成30年1月29日

沖縄県

1 比較評価結果を踏まえ、県民が対策案に求める視点

- ・対策案については、ステップ4における県民等から寄せられた意見において、以下のとおり様々な効果が期待されるとともに、環境影響等について配慮・留意が求められ、さらに選定に関しても、幅広い視点での検討が求められた。
- ・そのため、推奨ルート案の検討にあたっては、各案の効果の程度や留意点等を踏まえ、様々な視点に基づき、よりよい案を選定していくものとする。

期待する効果・ニーズ

1. 県土の均衡ある発展
 - ・那覇と名護を1時間で結び広域的な地域圏を形成することによる生活圏(通勤・通学等含む)、居住地選択、交流等拡大による本県の経済振興、各地域の活性化
 - ・全ての地域において利便性を享受
2. 県民及び観光客の移動利便性の向上 & 世界水準の観光リゾート地の形成
 - ・県民及び観光客全ての移動利便性の向上
 - ・速達性や定時性向上等による交通の改善及び充実
 - ・交通の充実による県民生活の向上
3. 交通渋滞の緩和及び低炭素社会の実現
 - ・自家用車及びレンタカー利用の減少
4. まちづくりへの寄与
 - ・公共交通の充実による駐留軍用地跡地及びまちの活性化

求められる配慮・留意事項

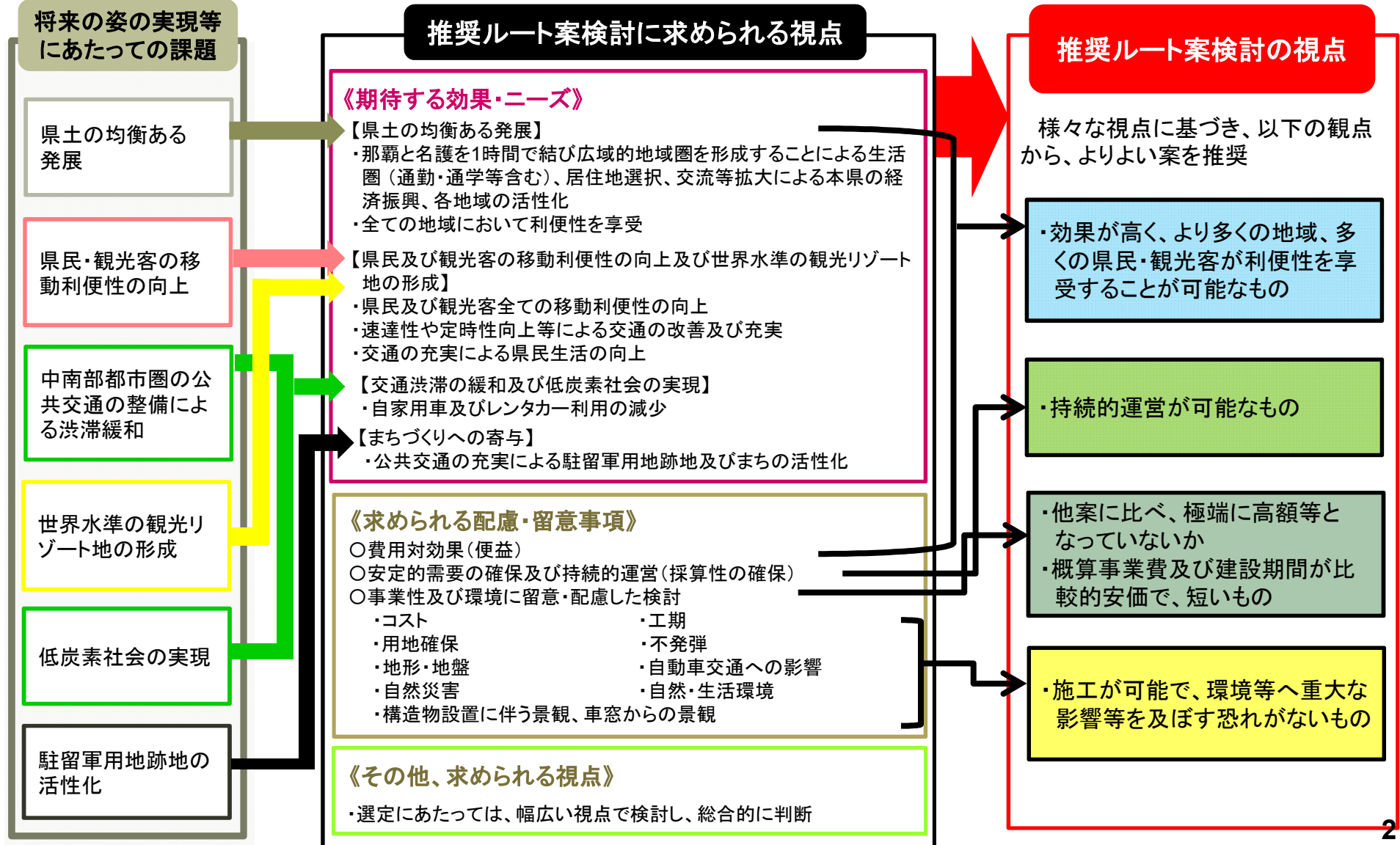
1. 安定的需要の確保
2. 持続的運営(採算性の確保)
3. 費用対効果(便益)
4. 事業性及び環境に留意・配慮した検討
 - ・コスト
 - ・工期
 - ・用地確保
 - ・不発弾
 - ・地形・地盤
 - ・自動車交通への影響
 - ・自然災害
 - ・自然・生活環境
 - ・構造物設置に伴う景観、車窓からの景観

その他、求められる視点

選定にあたっては、幅広い視点で検討し、総合的に判断

2 推奨ルート案検討の視点

- ・「推奨ルート案検討の視点」は、将来の姿の実現等にあたっての課題や県民等から寄せられた意見を踏まえ、以下のとおり整理される。
- ・なお、将来の姿の実現等にあたっては、骨格軸と併せて、フィーダー交通の充実も図っていくこととしている。



3 推奨ルート案検討の流れ

・各ルートについて、評価指標毎に効果の程度等を把握の上、「推奨ルート案検討の視点」に基づき、よりよい案を選定するものとする。

推奨ルート案検討の視点

様々な視点に基づき、以下の観点から、よりよい案を推奨

・効果が高く、より多くの地域、多くの県民・観光客が利便性を享受することが可能なもの

・持続的運営が可能なもの

・他案に比べ、極端に高額等となっていないか
・概算事業費及び建設期間が比較的安価で、短いもの

・施工が可能で、環境等へ重大な影響等を及ぼす恐れがないもの

評価項目・指標

・那覇～主要都市の所要時間
・60分圏内人口
・南北間交流人口の増加

・鉄軌道利用者数(県民・観光客)
・公共交通利用者数
・県民の外出機会の増加

・那覇～主要観光地の所要時間

・公共交通への利用転換量

・駐留軍用地跡地における公共交通利用者数
・まちづくりへのインパクト

・費用便益分析(単年度便益)

・採算性

・概算事業費、建設期間

・地形・地盤、用地の確保、耐災害性等、事業実施に与える影響

・自然・生活環境への影響
・景観

選定までの流れ

各ルートの特徴、他案と異なる点について、以下により確認

① 定量的項目については、最上位との差を確認し、効果の程度を比較

・採算性以外の指標
(最上位との差5%以内、10%以内、20%以内、20%～で確認)

・採算性
(黒字転換するか否か、事業実施目安の30～40年以内に黒字転換するか)

② 経由の有無により差が生じる指標(特定市町村に係る所要時間、圏域内人口)については、「鉄軌道の整備無し」との比較により整備による効果を確認

③ 地形・地盤等の事業実施にあたっての留意事項及び環境影響については、事業実施に重大な影響を与える課題等はないか、影響の程度等について比較

「推奨ルート案検討の視点」に基づき、指標毎の評価結果を踏まえ、総合的によりよい案を選定